

## 令和3年度静岡県立看護専門学校 学校関係者評価結果報告書

静岡県立看護専門学校

## 1 評価概要

対象期間	令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
実施日	令和3年5月19日（水）
場所	静岡県立看護専門学校会議室（Web会議システム接続、一部委員は遠隔で参加）
評価者	静岡県立看護専門学校関係者評価委員会（委員3名 敬称略、順不同） 平賀 聖悟（三島総合病院 名誉院長）、杉山 眞澄（静岡県立大学 准教授）、 石田 盛己（個人）
評価方法	令和3年度第1回学校関係者評価委員会を開催し、令和3年3月に実施した本校の「学校自己評価」結果を元に、学校関係者評価委員から評価、意見をいただいた。

## 2 評価結果

## (1) 教育理念・目標

現状	・静岡県内、特に東部地域において県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成することを責務としており、また、看護、助産を学ぶ人に主体的に学習する環境を整え、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観を持ち、豊かな感性を培い、看護、助産を実践する人を育てることを教育理念とし、看護教育を実践している。
自己評価	5項目の評価平均2.46点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	・評価平均は2.46点であり、平均的な評価であった。 ・「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」、「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の評価については、半数以上が“やや不適切”または“不適切”と評価している。
取組 ・ 改善策	・社会のニーズを踏まえ、カリキュラム改正において教育目標等を含め柔軟な見直しを行ない、引き続き、県内で活躍できる看護師、助産師を育成していく。 ・学校の理念・目的については、入学式、始業式、後援会等、日常の学校生活の中で周知を諮るように工夫していく。
委員 評価 ・ 意見	・自己評価結果は2.46点であり、より向上を図っていく必要がある。この学校の教育理念は非常に高く掲げられている。この高い理念を学生のものとするため、学生だけでなく、教員を含めて、自覚とプライドを持つことができるような方向性が必要である。例えば学校史などで、学校の歴史などを目に見

	<p>える形にすると、この学校がどういった人を輩出し、どういった病院で活躍しているか分かる。学生、教員の共有のものとして、また新しく入ってくる学生にも実感できるものとして、用意していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標は、教員がどれだけ理解しているのか、当事者意識がどの程度あるのかというところにある。誰かが考えてくれるだろうというスタンスでは評価が下がってしまうのではないかと思う。この学校をどのようにしていったら良いのかといったことを、みんなで話し合う時間が必要である。どこに問題があり、どういった学生を育てていきたいのか、これを自ら考えていく必要がある。</li> <li>・「学校の理念・目的・育成人材像は定められているか」の項目に不適切と回答した人が4人もいることに少し疑問がある。学校の理念などは、各学科の目標まで含めて、学校のホームページなどにもしっかりと書かれているため、不適切と回答した理由が気になる。その他、2人の先生方が言われたとおり、理念・目的・育成人材像について、教職員全体と学生が、自分自身の課題として押さえていく取組が必要である。</li> <li>・学校の教育理念・目標は、学校として一番大切な部分である。この部分を高い評価に持っていけると、より素晴らしい学校になって行くと思う。先生たちで話し合いの場を持つことも必要であり、具体策も必要である。それが先ほどの学校史や学校の歴史の部分にある。これは一例だと思うので、話し合いの中で何か、具体的に意識改革ができるようなことを考えて欲しい。</li> </ul>
--	---

## (2) 学校運営

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、助産師に必要な専門的知識、技術及び態度を修得させ、地域社会に貢献できる幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的とし、学校運営を行っている。</li> </ul>
自己評価	8項目の評価平均2.50点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.50点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」や「運営組織や意思決定機能が明確化され、また有効に機能しているか」、「情報システム化等による業務効率化が図られているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針に沿った事業計画の策定や、運営組織や意思決定機能については、運営会議等を柔軟に開催し、適切に運営していく。</li> <li>・また、日々の教務業務の効率化による業務改善に、引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人事給与に関する規程等が整備されているか」、「コンプライアンス体制が整備されているか」という質問に対する評価は高い。</li> </ul>

<p>・ <b>意見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」に関して評価が低くなっている。情報システム化による業務の効率化については、大きな時流でもあるので取り組んでもらいたい。やり方としては、例えばシステム化委員会というようなものを作り、漫然とやるのではなく、プロジェクト的に進めると良い。学校運営の一番大切な部分は、しっかりと出来ているという評価であるので、良いのではないかと思う。</li> <li>・先ほどの意見のとおり、人事給与等の関係は問題がないと思う。</li> <li>・私の大学でも昨年度は全てがリモートになり、グループワーク等もできなかった。教員自ら現場にビデオを撮りに行き、教材も作った。これが、情報システム化による効率化に、このまま合致するかは分からないが、こういった取組もある。「情報システム化等による業務の効率化」というのは当事者でなければ分からない部分も大きい。どこの部分を効率化していくのかといった具体的なところを検討し、専門の部署に相談をしながら進めて欲しい。</li> <li>・「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」、「運営組織や意思決定機能の明確化」等について、“不適切”や“やや不適切”の評価の方が上回っている項目がある。これは、職員の間で、学校運営に関して納得しない気持ちを抱えている職員がいるのではないのか、といった印象を受けた。</li> <li>・昨年度の結果と比べ、改善した質問項目の理由を確認すると、他の不適切よりの回答が多い質問項目に関しても、改善していくヒントになるのではないか。例えば、情報が職員の間で周知されたことや、職員が納得したことが理由であるのなら、その他の項目を改善していく場合に、職員に伝わっていくような取組を行えば、評価が変わっていくのではないか。</li> </ul>
------------------------	---

### (3) 教育活動

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に医療の現場に必要な実践力等を確実に修得させ、静岡県民の医療の担い手となる質の高い看護師及び助産師の育成を目標に看護教育を実践している。</li> </ul>
自己評価	14項目の評価平均2.48点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.48点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発」、「関連分野の関係施設等との連携による新カリキュラム作成」、「教員の先端的な知識・技能等の修得、指導力育成の取組」、「教員の能力開発の研修」等については、約6～7割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のカリキュラムの見直しを行い、新カリキュラムの作成を行う。今後、更に地域の関係施設との連携に取り組んでいく。</li> <li>・教員の研修については、現在も、研修等に積極的に参加できる体制を整備している。引き続き、研修機会を積極的に創出していく。</li> </ul>

委員  
評価  
・  
意見

- ・関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保、教員の研修や指導力の育成などの教員の皆さんの研鑽部分、この部分が不足している結果となっている。
- ・この学校の特色でもある実習の多さ、そしてたくさんの病院に分散して実習を受ける、こういった部分には多くの教員が取られるだろうし、結果として時間がなかなか取れないのであろう。
- ・他校に比べても教員のマンパワーが必要であらうし、これを満たして行かないと、教員の研修時間も確保していけない。教員のブラッシュアップを行っていくための余裕が必要であり、この余裕を作って広げていかないと解決できないのではないか。先生方の悲鳴が聞こえるような結果なので、努力して取り組んでいただきたい。
- ・教員のブラッシュアップについては同感で、これに力を入れて欲しいと思う。先生方も大学院に行くなど自ら勉強し、先生たち自らが自分たちの教育の質を高め、看護の研究活動などにも取り組んで欲しい。これを見る学生目からも、一番身近な看護師としてのロールモデルになる。ここにキャリア教育というものもつながってくると思う。
- ・先生方の環境を整えてあげるとするのは、ベースとして必要である。受け身の研修に行かせるだけでなく、自らが研究できるような下支えがあると良いと思う。例えば、現場の方々と一緒に研究活動を行うことができると、実習場としての現場の質も上がっていくし、教育のことも理解してもらえ、そういった相乗効果も期待できるのではないかと思う。
- ・令和2年度に行った静岡県公衆衛生研究会への出題のように、一つひとつ、活動を続けていただけたら良いと思う。
- ・評価が厳しいというのは、先生方が常に質の高い教育を行おうという意気込みの表れであると受け取っている。現状に満足せず、常に厳しい目で自らを見ていきながら、新しいものを取り入れ、社会のニーズを視野に入れながら、教育を行っていきたいという意気込みの表れがこういった厳しい評価になっているのではないかと思っているので、私はあまり心配をしていない。
- ・「教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか」という質問項目について、“やや不適切”という評価が昨年度は3人であったのが、今回は12人に増えている。こういった大幅に増えた部分の理由を洗い出しておかないと、来年度以降、“不適切”の評価が増える危険性がある。今のうちに、こういった大きな変化があったところについては、問題点の洗い出しなどをしていくと良いのではないかと思う。

#### (4) 学習成果

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師及び助産師人材を送り出す必要条件となる国家試験については、低学年から国家試験を意識した学力強化を行うほか、最高学年では不得意分野の対策を強化することで全員の国家試験合格を目指している。</li> </ul>
自己評価	5項目の評価平均 2.50点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価平均は 2.50 点であり、平均的な評価となった。</li> <li>「退学率低減の対策」、「卒業生・在校生の社会的活躍や評価の把握」、「卒業後のキャリア形成効果の把握や学校教育への活用」については、約 6～7割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学後の不適性による退学を低減させるために、オープンキャンパス及び学校説明会を開催する。</li> <li>また、入学後も、学生生活が充実できるようにするため、人間関係や学習への悩み等の相談体制を整えている。令和3年度からは、カウンセラーを1名から2名（男性、女性各1人）に増やし、相談日も月2回から4回に増やすことで、多岐に渡る相談に対応できるようにした。</li> <li>卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握、これらの学校教育への活用について検討し、教育活動の改善に引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資格取得率の向上が図られているか」は、3.08点を取れている。資格取得率の向上に関しては、目標を達成できているという先生方の評価であると思う。これは、国家試験合格が最大にして大事な目標であり、これへの取組について、評価できるといえる。</li> <li>「卒業生・在校生の社会的な活躍の把握」や「卒業後のキャリア形成の把握」については、昨年度も評価が低かった。卒業生の事を把握できていないのではないかと思う。また、在校生と卒業生の関係も希薄であると思う。</li> <li>先ほどの、学校の理念にも結びつくことではあるが、OBに対する尊敬や、一言でも会話するような身近に感じるような関係があって良い。毎年優秀なOBを輩出し、活躍している方々も大勢いると思うので、同窓会を活発化させてはどうか。少し特色のある卒業生から、現役の学生に話をしてもらったり、励ましてもらったりといった関係があって良いと思う。</li> <li>卒業生に関する項目については気になった部分である。私の大学では卒業生講演会というものを毎年行い、保健師になった学生、助産師になった学生、県内の病院に勤めている学生など4、5人の卒業生に来てもらい、国家試験の勉強の仕方や、どういった経緯で就職先を決めたのか、今どういった仕事をしているのか等の話をしてもらっている。</li> <li>自分の学校の卒業生の姿が見えると、相談もし易い。助言だけでなく困難があった部分も一緒に話してもらえると、学生の方のモチベーションも上がる。</li> <li>卒業後の就職先は分かると思うので、直近の5年ぐらを集めてみて、こういった会を行ってみてはどうか。これは、入って来たばかりの学生が受けて</li> </ul>

	<p>も、好影響を与えるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「退学率の低減が図られているか」については、前年度に引き続き、“不適切”と“やや不適切”の評価が多くなっている。実際に入学して勉強をしてみて、また、実習を経験してみて、自分が看護に向いていないということが分かったのであれば、退学をして違う進路に行くというのは、悪い意味ではないと思う。</li> <li>・退学率が上がってきていることは、気になるところではある。最近の流れとして、一つのところで頑張らないといけないといった意識が薄くなってきていることがある。やってみて自分に向いていなかったら、もっと自分に向いているところに行こうという意識が変わってきている部分もあるので、これも理由の一つであると思う。経済的な理由の退学については、できるだけ助けてあげることができる道筋を見つけてあげたい。</li> <li>・退学率の低減という部分については、入学する時の動機付けにも絡んでくると思う。この点も踏まえて、対策を考えていかないといけない。</li> </ul>
--	--

#### (5) 学生支援

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校から就職説明会の要請があった場合に出前説明会を開催する等、高校生への周知に取り組んでいる。</li> <li>・令和2年度から高等教育修学支援新制度の対象校となっているほか、専門実践教育訓練給付金制度の指定校となっているなど、経済的な支援体制を整えている。</li> <li>・卒業後、卒業生からの相談にも個別に対応を諮っている。</li> </ul>
自己評価	10項目の評価平均2.50点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.50点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「卒業生への支援体制」、「社会人のニーズを踏まえた教育環境整備」「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」の評価が低い。特に、「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」については、約8割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が高校に出向き学生に説明する機会を設けるなど、高校等と連携した取組みを引き続き実施していく。</li> <li>・また、卒業生への支援体制についても、相談への個別対応をとおし、引き続き、卒業生への支援に取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援については平均的な評価結果であった。特に、「学生に対する経済的な支援体制が整備されているか」については高評価になっている。県立学校としてのサポート、病院の奨学金等が、この評価に影響していると思う。</li> <li>・「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育」については、何に取り組むのか、どういった連携ができるのか等について、特に低い評価をした先生に意見を聞くなどすることが必要になる。実施回数が少なく、実施している</li> </ul>

ことへの印象が薄くなっているのであれば、取組の回数を増やすことが必要になると思う。これから入ってくる学生に対する取組の内容や方法については検討すべきことなので、学内でも意見を聞いてみると良い。

- ・「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」も、低い評価となっている。社会人のニーズが卒業後の進路、学生の希望や思いを表すのであれば、色々な就職先で働く先輩方と学生が話ができる機会を確保し、学生の不安を解消してあげるような現場の取組が必要になると思う。
- ・「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」という質問について、「社会人」はどういった意味を指すのか。学生が卒業した後の社会人なのか、社会人の学生を受け入れるという意味なのか、取り方によってこの質問は大きく変わるので、質問の意図を明確にするべき。
- ・卒業生が活用したい学校であれば、勉強したい時に先生方に相談できる環境が用意されていることが必要だと思う。また、社会人の学生の受入れであれば、例えば、福祉の仕事をしながら少し勉強がしたい、これを支援できる環境というものには何があるか、というようなことを考えないといけない。
- ・子供が少なくなっているので、社会人を大いに受け入れましょうという流れもあると思うので、これに対して準備することも必要だと思う。“不適切”と評価した方が、どの着眼点で評価したのか、よく話し合った方が良い。
- ・「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」について、大学では、高大連携として高校に行き、看護系の学校を希望する学生への模擬授業を行っている。教員が学校に行き、専門学校ではこんな勉強をしますよ、というようなことをアピールしても良いと思う。
- ・看護師や助産師のことを、高校生は意外と良く知らないし、高校の先生方も良く分かっていないのではないかなと思う。高校の先生方への教育という意味でも、こういった取組は良い。
- ・「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」については、先ほどの意見の通り、高校の先生自体が、看護学校のことをあまり知らないという部分があるのではないかなと思っている。これは先ほどの退学率というところにもつながってくると思う。
- ・心理学の授業の中で、学生に「なぜこの学校に入ったのか」という動機をプリントに書かせると、自分でというような主体的な理由ではなく、例えば、親に勧められた、学校の先生に勧められた、といった動機を書く学生が結構いる。資格が取れる、収入が得られるといった理由もあるのであろうが、こういった部分だけで看護学校に入ってきてしまって良いのかといった思いもある。看護という仕事をしていくにあたり、もう少し、主体的な動機付けがあって良いのではないかなと思っている。この意味でも、高校の進路指導という部分について、高校の先生方は、そこまで看護の仕事に詳しくないと思うので、高校の先生方を教育するというような意味でも、とても大切なことで

	<p>はないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校にアプローチする方法を考えていくことも必要である。高校でも進路のキャリア教育をやるので、そういった場で、卒業生の力を借りてアピールしていく方法もある。</li> <li>・中学校段階でのアピールもあっていいのではないかと思う。中学校でも職場体験として、色々な職業について調べ、実際に職場に行き、1、2日間体験させてもらうといった取組を行っているが、医療系の職種、病院に行くこともある。キャリア教育として、静岡県立看護専門学校があるということ、高校を卒業して看護学校に通い、国家試験を受けて看護師になるといったことを、中学校の段階から伝えていくことも良いと思う。</li> </ul>
--	--

## (6) 教育環境

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月から5月を臨時休校とした。学校再開後も、病院等で臨地実習の受入れが困難となり、受入れ先が見つからない場合には学内実習で補完するなど、学生に、学習の遅れが出ないように、取り組んだ。</li> <li>・感染予防策として、教室内の人数制限から講堂を教室として使うための整備を行ったほか、各教室等に飛沫防止のためのアクリル板やビニールシートの間仕切りを設置した。また、遠隔授業を実施するため、校内にインターネットのアクセスポイントを設置したほか、パソコンやタブレット端末等を整備し、コロナ禍における校内の環境整備を行った。</li> </ul>
自己評価	3項目の評価平均2.44点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.44点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」、「学内外の実習施設等の教育体制の整備」については、6～7割が、“やや不適切”または“不適切”と評価してる。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の整備については、耐用年数や故障等のタイミングで、順次入れ替えを実施していく。</li> <li>・コロナ禍の感染症対策としては、健康管理のほか、消毒、うがい、マスクの着用、県をまたぐ行動の制限、アルバイトの禁止等、様々な観点から引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年から今年にかけて、新型コロナウイルス感染症の関係で例外的な状況である。異常事態であり、先生方も御苦労されていると思う。こういった意味で、教育環境の評価は難しい。いずれ通常状態に戻れると思うので、実習施設や教育上の備品設備について、不足するところがあればピックアップし、要望していく必要がある。</li> <li>・8年前に、県の健康福祉部の要請で、この学校の強化検討委員会を行った。結果、図書やプロジェクターなど新しい設備も整備された。この学校の発展</li> </ul>

	<p>に資するためには、1回限りで終わるのではなく、継続性が必要である。設備に不足する部分があれば、通常状態を想定し、要望を上げていって欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価点については、設備関係が2.35点、これに対して防災関係は2.73点と高い。これは新型コロナウイルス感染症への対応がしっかりと出来ているのではないかと評価する。これに比べて、「教育上必要な施設・設備の整備」、「学内外の実習施設等の教育体制の整備」については、そこまで高い点数ではないので、これを念頭に改善させて欲しい。</li> <li>・施設や設備の問題はお金に関係することではあるが、出来る限り、最先端のもので、学生が教育を受けられるように努力はお願いしたい。特に、昨年度は新型コロナウイルスの関係で、インターネット環境等の整備が進んだと思う。そういった資材も活用しやすくなっているのも、公開されているようなものも上手く活用するなど、取り組んでいって欲しい。また、図書の方もしっかり整備し、図書から学ぶといった機会も確保していただきたい。</li> <li>・就職試験で落ちた理由として、インターンシップに参加していなかった、という要素がある。就職を希望する病院には必ずアクセスし、最低限、インターンシップに参加するように、学生の指導が必要であると思う。奨学金をもらっていたから安心していただけ学生で落ちた事例もある。丁寧に指導を行って欲しい。</li> <li>・「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」という質問項目の海外研修については、この学校に本当に必要なのか。こういった一言につられて、“やや不適切”や“不適切”が増えてしまうこともあると思うので、設問の語句も精査した方が良い。</li> <li>・施設整備に関わる部分であるが、教員のための看護関係の雑誌、専門誌を整備することも必要である。例えば、精神科看護などといった専門誌は何種類もあり、看護研究という雑誌もある。既に定期購読していて、教員も自由に閲覧できるとのことであるが、こういった雑誌をしっかりと整備することは、教員のキャリアアップや、この学校の理念の向上に資する活動になると思う。</li> </ul>
--	---

### (7) 学生の受入れ募集

現状	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オープンキャンパスをWeb開催で実施した。
自己評価	3項目の評価平均2.51点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.51点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「学生募集活動の実施」や「学習募集活動における教育成果の提示」については、約5割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組	・学生募集活動については、ホームページ等の広報媒体を活用するほか、オープン

<p>・ 改善策</p>	<p>キャンパスや講習会等の機会をとおり、引き続き、教育成果を含めた本校のPRを積極的に行っていく。</p>
<p>委員 評価 ・ 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生募集については、2025年問題があり、今後学生の数も減っていくので、応募の競争率が低下していく。本腰を入れてリクルートをしないといけない。学生募集については、他県までリクルートに行っているような事例もある。</li> <li>・ いかにも魅力のある学校なのか、看護師が魅力のある仕事なのかという部分をアピールすることも大事で、先ほどの意見にもあったように、中学校からプッシュしていくことも必要なのではないかと感じた。高校や中学に行き、今の看護職の仕事をPRしていく活動も、今後は、本腰を入れていかなければいけない時代かなと思っている。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の関係で、学生募集というものも、なかなか外に出ていきにくいという部分はあると思う。高校や中学校での取組が新聞で紹介されると、行った学校だけでなく他の学校にも広がっていくというような事例がある。ひとつの学校でやったことが他の学校でも紹介してもらえるといった効果が期待できる。取組をたくさん行うことはできないだろうから、一箇所ですることが広がるような手段で取り組むと、より効果的ではないかと思う。</li> <li>・ 看護1学科の応募が減ってないということで良かったが、先ほどの話を聞くと安心はできない。私学の入試情報を見ると複数日入学試験日を設けるなど、様々な努力をしている。少子化の状況を踏まえると、県立の学校も安心してはいけない。</li> <li>・ 病院では、「看護の日」に施設をオープンにして、高校生に看護師のユニフォームを着てもらったりなど、病院見学の機会を設けている。学校でも、「看護の日」にオープンキャンパスを開催したり、学校内を案内するなど、将来の看護師さんを集める方法もあると思う。知恵を出し合って学生募集をやって欲しい。</li> <li>・ 県内の准看護師の養成所は、浜松市医師会の1箇所だけになった。准看護師の数も年々減ってはいると思うが、全国的には少なくなく、相当な数があると思うし、県内にも准看護師の方はいる。8年前の本校の強化検討委員会でも看護2学科のことは話題になり、通信制にした方が良くはないか等の様々な意見もあったが、看護2学科は維持するという提言となっていたと思う。ただ、かなり減ってきているのは事実なので、様子を見ながら先行きを見据えて行かないといけない。2学科の学生を集める方法、学生が増える方策を検討していく必要がある。やるべきことはやっていかないといけない。</li> </ul>

(8) 法令等の遵守

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度から学校関係者評価委員会を実施し、委員の意見を踏まえた学校運営の改善に取り組んでいる。</li> </ul>
自己評価	4項目の評価平均2.63点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価平均は2.63点であり、概ね適切との評価となった。</li> <li>各評価項目で概ね適正の評価を得ているが、「自己評価の実施と問題点の改善」については、約5割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自己評価の実施と問題点の改善」については、引き続き、学校関係者評価委員の意見を踏まえた学校運営の改善を行っていく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価平均が2.63点で9項目の中で最も評価が高い。質問項目ごとに確認すると、「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の評価が低くなっている。毎年実施していくということでスタートして思うが、自己評価及びその評価は、毎年続けていくことが重要である。</li> <li>単年度で評価をして、単発で終わってしまうのではなく、昨年との比較で、どこが改善し、どこが改善していないのかを確認し、取組に効果があったのかという点を検討することが大切であると思う。</li> <li>これを踏まえると、今までの話にもあったように、評価設問が当校に適合しているのかどうかという問題も出てくるので、この点も検討して欲しい。</li> <li>全体をとおして、不適切よりに回答している方は固定されていて、他の質問項目も厳しい評価をしていると推測される。アンケートの部分だけでは見えないので、具体的な意見を少数派から聞きながら、なぜ不適切と評価をするかについて明らかにして、検討していくと良い。</li> <li>「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の評価が少し低い点については、前年との比較や、昨年度の取組結果を含めて振り返ってもらい、内部で検討すると良い。</li> <li>ここまでの質問項目にあった、合格率や退学率、資格の取得率などについては、経年変化が分かる資料など、客観的なデータも併せて提示しながら評価をする方が良い。</li> <li>授業ごとではなく全体のアンケートや、学校運営に関するアンケートを学生にとり、学生の意見も取り入れたら良いのではないかと思う。社会人を経験している学生もいる。学生の募集なども、学生が良いアイデアを持っているのではないかと思う。</li> <li>「法令等の遵守」や「個人情報保護の評価」が高いのは、今までのお話の通りだと思う。「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については、昨年度と比較して今年はどうだったのか、というところを検討していくことが大事だと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、前の年度で、“やや不適切”や“不適切”の人数が多かった部分が、次の年度でどのように改善しているのかを見ていくことが大切だと感じている。この会議自体がまだ2回目なので、こういった部分の積み重ねも必要になってくる。</li> <li>・全ての職員が学校全体の状況を把握しているわけではないと思うので、イメージで不適切の評価をしてしまっている可能性がある。各職員が自分の領域とは異なる部分の評価をするときには、退学率の推移や入試の志願者数などの判断基準となる情報を提示しながら行うことが必要ではないかと思う。</li> </ul>
--	---

### (9) 社会貢献、地域貢献

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、公開講座の開催や研修会の実施等は行うことができなかった。</li> </ul>
自己評価	3項目の評価平均2.17点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は2.17点であり、“やや不適切”から“不適切”の評価が多い。</li> <li>・特に、「地域に対する公開講座等の積極実施」については、“やや不適切”または“不適切”が8割を超える結果となった。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が参加できる公開講座の開催や、地元自治体や団体と連携した研修会の実施、防災訓練への参加などに取り組んできている。本校は地域の医療人材の育成を行っていることから、社会貢献や地域貢献等の取り組みについて、今後も継続して取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均が2.17点で、9項目の中で最も評価が低かった。「地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか」が1.88点で特に低い。今までもやっていると思うが、学校祭など、一般の人が来れるような機会を作れば、自分たちの勉強の成果や研究の成果を発表する公開の場になると思う。社会貢献・地域貢献というのはなかなか難しいことである。</li> <li>・「学生のボランティア活動」、「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献」の評価については、コロナ禍以前も高くはなかったと思うので、そこを問題にすべきであろう。卒業生が卒業後も図書室を利用できるといった取組があると聞くと、全体に向けた取組としては見当たらない。また、学生のボランティア活動については、私の病院で「ふれあいフェスタ」というものを行った時に、この学校の学生に手伝ってもらったことがあるが、社会とのつながりという部分には、OBとのつながりも入ってくると思う。新型コロナウイルス感染症の制約が無くなったときに、さらにアクティブに進めていく必要がある。</li> <li>・私の大学でも、地域貢献というものは、とても力を入れている分野でもある。例えば、住民が自主的にやっているお年寄りの介護予防活動など、そういった場所に学生が出向いて行くというような取組を毎年進めている。学生にた</li> </ul>

だ行っても良いよ、と言うだけではなかなか行かないので、先輩が行った所に後輩が行くというように、最初は道筋を作ってあげると良い。また、学生は、教員と一緒にだと、すんなりと入り込めることが多い。

- ほかにも、新型コロナウイルスの予防接種会場にお手伝いに行くこともできるのではないかと思う。夏休みの期間を利用してお手伝いに行き、それを新聞などにPRするというような、ボランティアのやり方もあると思う。
- 「県民の日」に親子教室も行っている。看護に直接関係無かったとしても、模型を見せたりクイズ形式にしたり、赤ちゃんの模型を使いながら沐浴を体験してもらうなど、夏休みの研究、体験学習に使ってもらえるようなことをしている。公開講座などと堅苦しいものでなくても、こういった地域貢献もあるのではないかと思うので、あまり堅く考えずに取り組んで欲しい。
- 新型コロナウイルスの影響で、公開講座というものは、とてもやりにくかったと思う。これまでも、オープンキャンパスや学校祭、文化祭などを通し、外部に開放する取組もやられていたと思う。新型コロナウイルス感染症が収束し、これらを再開できるようになれば、評価も改善していくのではないかなと思う。
- 学生のボランティア活動についても、先ほどの意見にあった方法が、すごく良い方法ではないのかなというように感じた。